艦これ・アズレン・アシュア・ドルフロが混ざった世界で。

桜好き

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

神様から目をつけられたちゃらんぽらんな男が神様の遊戯に巻き込まれる話。

目次

神様との邂逅 ―――― 1

神様との邂逅

　気付いたら、俺は白い部屋にいた。
「ここは…？」
「お？どうやら気がついた様だね」
「貴方は？」
　俺の目の前に、子生意気そうなショタッ子がいた。
「生意気なショタッ子かぁ…バイ？」
「いえ…バリバリ女の子が大好きです」
　でもちょっと躾けてみたいとも思う。
「成る程なぁ…まぁいっか。さて、まぁ薄々気付いてると思うけど、僕は神様だよ」
「ほほう…」
　ベタだな。
「ベタだね。まぁでも仕方ない。これが一番君達が慣れてる方式だから」
「確かに、すぐに分かる」

「だろう？じゃ、早速だけど転生のお時間だ。ちょっと君のスマホを拝借するね」
「おぉ…何でもありですね」
　エロゲ世界はやめておくんなまし。
「エロゲ世界も何も、君のエロゲ全部ブラウザじゃん」
「まぁ」
「なら無理だよ。お、良い感じのゲーム入れてるじゃん」
「…因みにどのゲームでしょう？」
　出来ればウマ娘は来ません様に。
「えー？ダメなの？」
「ダメです。アレはＲ１８行為をしたらうまぴょい警察に存在ごと消されるので」
　フリじゃないぞ？
「ちぇー、仕方ない。ならこの四つの世界でいっか」
「…因みにどの世界なんでしょう？」
「え？全部戦争物だけど」
　るぅー。
「ダメダメ、生温い日常なんて見飽きてるんだ。まぁでも地続きの世界は混ぜるととんでもなく大変だから…うん、キャラだけ引っこ抜こっか」

「…つまりどう言う事です？」
「真っ新な世界に四つのゲームのキャラだけを打ち込むのさ。大丈夫、ＮＴＲ対策もバッチリ、君以外に男はいないよ。世界にいるのは全て敵、四つの世界にいた敵を全て出す。コラボキャラは…気が向いたら出来る様にしてあげるよ」
「おおぅ…」
　それって闇鍋なのでは？
「そうとも言う」
　嫌だぁ～～。
「文句は言わない。偶々僕の、神の目に止まったんだ。そして、記憶を保ったまま生き返らせてあげるんだよ？感謝感激して僕の為に踊ってくれても良いだろう？」
「むむむ、致し方無し」
　でも多少の支援はプリーズ。
「それは勿論。直ぐに死んだら面白くないからね。君の転生…いや、転移かな？その場所に物資と建造機、後取扱い説明書を置いておくよ」
「有難き幸せに御座います」
　因みに資源ってその世界でとれるんでせうか？
「取れなかったら戦えないだろう？ただ、適当に掘れば出るって訳じゃないから、ちゃん

と調べて集めてね。君の転移先は、２０世紀に核爆弾で各地が吹き飛んだ地球だからさ。じゃ、頑張って」

「エ？」

エ？

ーーー

気がつくと、俺は白い砂浜の上で日に焼かれていた。

「なんか…途轍もなく聞きたくなかった文言を聞いた気がするんですけど…」

まぁ取り敢えず、砂浜死ぬほど暑いので木陰へと退避する。

「あっつーい…ふぅ。で、神様が言ってた多少の物資と建造機は…アレかー」

視線を向けた先、そこにはでっかく建造機と書かれた小屋とそこに隣接する様にこれまたでっかく倉庫と書かれた小屋があった。

「…大雑把だなー」

まぁ分かり辛いのよりかは良いや。そう思いながら、照り付ける砂浜の上を全力疾走で走り抜けていく。

「なんで足だけ裸足なんだぁーーー!!!!」

そう叫びつつ。いやもうほんと、ちゃんと服は着てるのに靴だけ履いてないとか意味分かんない。

とぐちぐち言いつつも小屋へと辿り着いた俺はサッサと中へと入った。中は…なんかどっかで見た事ある様な…そうでもない様なモノだった。
「うーん…？これ、ドルフロか…？いや、アシュアか？」
目の前には四つの建造機が並んでいた。しかし二つはなんかこのままでは使用出来ない雰囲気があった。手で触れてみる。
「む…やっぱりダメか。なら取り敢えず、この二つかな？」
ダメだった二つから手を離し、もう二つの方へと手を掲げてみると、俺の視界にバーンとウィンドウが現れた。
「おー、これやっぱりドルフロだ。アシュアはよく考えたらプロファイルだもんな」
左から人形・弾薬・食料・パーツ…かぁ。懐かしいな。
「もうかれこれ2年は触ってなかったからなぁ…まぁでも、レシピはまだ覚えてるな」
ということでスタンダードに１３０×４。すると、ギュルルルルルル!!!と大きな音を立てて建造機が動き出した。そして1分もしない内にパカッと建造機が開く。
そしてそこからＭ１９１１ちゃんが五人、ゾロゾロと現れた。
「あれ？コアリンクが最初からマックス？」
「初めましてダーリン♡神様？からのお便りが来てるから渡すね♪」
一番先頭にいた娘（多分この娘がコア）から手紙を渡された。早速読んでみよう。な

になに…。

「…成る程なぁ。コアリンクの拡張かぁ」

手紙にはコアリンクの更なる拡張機能を追加したと書かれていた。まぁつまり、たった五人のコアリンクじゃこの先の戦争勝てないから強化しとくよ！感謝してね!!だ。

「…引きこもってたいなぁ」

「ダーリン？どうかしたの？エッチしたいの？」

「それは今はまだ良いかな」

「はーい」

軽くM１９１１を相手しつつ、まぁなる様にしかならんかぁ…と思うのであった。